

○入賞 山田 耕太（やまだ こうた）さん

取組内容や効果

子どもの心に届く！ゼロカーボン意識を育てる情操教育プログラム
子どもたちの内面に働きかけて“地球とのつながり”を実感させる取り組みとして、学校現場で導入できる夏休みの宿題を提案。

宿題①「夏休み炭素日記～あしたの地球にメッセージ～」(毎日の1行日記として地球が喜びそうな行動(CO₂を減らす工夫)と、地球の気持ちを想像して一言コメントを書く)

【効果】

- ・ CO₂を“見えない脅威”から“語りかけられる存在”に変えるといった新しい視点や価値観を見出せる感性を磨く。
- ・ 自分自身の生活と環境問題とのつながりを理解し、環境とのつながりを感じる力を育む。
- ・ 親子で話し合いながら夏休みの課題に取り組むことで、家庭との連携を強める機会になる。

宿題②「モノの命名式」(買ったモノに名前をつける体験を通して作文にまとめる)

【効果】

- ・ モノの背景(作ってくれた人など)を想像することで、モノを大切する心を育む。
- ・ モノを大切にすることを育み、環境に優しいエコにつながる行動意識を醸成する。
- ・ モノを大切にモノへの愛着を通し、新しいモノを購入する回数が減り、環境に配慮した生活を送ることができる。
- ・ 親子で一緒に取り組むことで親の消費行動にも波及する。(エシカル消費など)

【長期的な効果】

- ・ 自分の暮らしと地球環境との「つながり」が見える子どもを育てる。
- ・ 20年後、家庭や職場でも自然と“ゼロカーボンを意識できる大人”に育てる。
- ・ 一過性ではない生活習慣や行動様式としてのCO₂削減意識を醸成する。